

# Project 1 事例紹介 新ウランバートル国際空港建設計画 (円借款)

## プロジェクトの背景

モンゴルは、近年、サービス産業の成長や豊富な地下資源・畜産資源に対する投資拡大等を背景に、同国への海外からの渡航者が著しく増加しています。こうした中、ウランバートル国際空港の国際旅客数は2003年の約20万人から2014年には約67万人とほぼ3倍となり、将来の国際線を中心とした需要の拡大が見込まれています。一方で、既設空港は南側と東側を山に囲まれた地理的制約があり、風向き等の気象条

件によっては離着陸が制限され、遅延・欠航もたびたび発生し、信頼性・安全性の向上が課題となっていました。このため、モンゴル政府は、新たな国際基準に見合った新空港を建設することとし、これに必要な資金援助を要請してきました。これに対して、日本政府は総額で656.57億円の円借款供与し、施設の建設と機材の調達が行われ、2017年1月に完工してモンゴル側への引き渡しが完了しました。

## プロジェクトの概要

### 一 新ウランバートル国際空港の建設(トゥブ県フシグト谷)

滑走路(3600m×45m×1本)、エプロン(10万4200m<sup>2</sup>)、旅客ターミナル(3階建て、延べ床面積約3万m<sup>2</sup>)、管制塔、その他空港保安施設、消化救難施設、熱供給施設などの付帯施設の建設

\* なお、日本政府によるモンゴル政府への貸付条件は(第1期:288.07億円)金利0.2%(コンサルティング・サービスは0.01%)、(第2期:368.5億円)金利0.1%(コンサルティング・サービスは0.01%)、償還(据置)期間40(10)年となる。



工事中のターミナルビル(2016年9月24日撮影)



新空港の完成予想図

## 期待される効果

本案件は、首都空港の安全性・信頼性の改善と利便性を向上し、国内外の物流の効率性を図るとともに、首都ウランバートルを中心としたモンゴル全体の経済機能を強化する目的で計画されました。

新たな国際空港の建設により、2019年には年間1万4,500便の国際就航便の往来が可能となり、国際

旅客者約14万人と国際貨物9万2,000トンの物流が期待されています。これは既設空港の能力が2.5倍相当向上することになります。

新空港が日本とモンゴルの新たな友情のシンボルとして、将来にわたり両国民に愛され続けるものになることが期待されています。